

修士論文(要旨)

2023年7月

精神疾患により万引き行為を行う高齢者の実態と対策

指導 中谷 陽明 教授

国際学術研究科

老年学学位プログラム

221J5902

孔馨頤

Master' s Thesis(Abstract)

July 2023

Profile and Interventions for Elderly Shoplifting Behavior Associated with
Psychiatric Disorders

Kong Xinyi

221J5902

Master of Arts Program in Gerontology

Master' s Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J.F.Oberlin University

Thesis Supervisor: Yomei, Nakatani

目次

はじめに

第1章 高齢者の万引き行為

1.1 高齢者の万引きの実態	1
1.2 精神疾患による高齢者の万引き行為	1
1.3 高齢者の万引き行為の原因となる精神疾患	2
1.3.1 前頭側頭型認知症（F T D）	3
1.3.2 クレプトマニア	3
1.4 精神疾患を抱える高齢者の万引き行為に対する法的な観点	4
1.5 研究目的	4

第2章 研究方法

2.1 調査対象	5
2.2 調査方法	5
2.3 分析方法	6
2.4 倫理的配慮	6

第3章 研究結果

3.1 インタビュー項目への回答	6
3.2 フォーカスグループインタビューから得られたカテゴリー	13

第4章 考察

4.1 F T Dやクレプトマニアによる万引き行為の実態および再犯を防ぐための支援策	14
4.2 通報のための障壁	14
4.3 治療的司法のアプローチに関する意見	15
4.4 万引き防止の施策	15
4.4.1 総合的・包括的なアプローチ	16
4.4.2 万引きしにくい環境づくり	16
4.4.3 万引きが高いコストを伴うことの意識づけ	17

おわりに

文献

はじめに

高齢者の犯罪率が増加している中で、高齢者による万引き行為が深刻な社会問題となっている。しかし、その増加要因についての適切な分析は不十分である⁽¹⁾。身体的・認知的な衰えや心理的要因、経済的困窮などが絡み合っている可能性がある^(2,3)。また、精神疾患が原因となることもあるが、一般的には認識されにくく見逃されるケースも存在する。高齢者の場合、定年や孤独感などのライフサイクルの変化、配偶者の喪失などが窃盗行為の原因とされている。これらの要素が精神的な不安を引き起こし、窃盗行為につながる可能性がある。^(10,11) 精神疾患による高齢者の万引き行為は、これまでは司法の分野でのみ問題解決がされてきたが、処分後も再犯を繰り返すという悪循環に陥る。今回の研究の目的は、高齢者の精神疾患による万引き行為の認識が、関係者の中でどの程度共有されているのかを解明することである。また、効果的な対応策や予防対策についての情報を得ることで、高齢者の精神疾患による万引き行為の再発を防ぎ、適切な支援の提供に寄与することを目指している。

二. 調査と研究方法

ある程度の知識を有している地域包括支援センターのソーシャルワーカー、弁護士と被害経験を有する書店の経営者・店員、万引き防止機構についてフォーカスグループインタビューを実施し、録音したインタビューを逐語録に起こし、内容分析を行った。主旨に関する重要なキーワードや記述内容をまとまりのあるもの同士をまとめ、それらをカテゴリーとして分類し、意味のある結果としてまとめた。

三. 結果と考察

見出されたカテゴリーは、以下のようなものであった。①F T Dやクレプトマニアによる万引き行為の実態「恐怖心の欠如や認知能力の低下が引き起こす行動パターンの特徴」「保護者や介護者の同行による防止策」「複数の店舗での繰り返し行為や盗みの発覚の事例」、②通報のための障壁「通報の重要性や必要性に関する意識」「通報の手続きやコストの問題によるためらい」「一部の店舗での通報実施例と対応策」、③治療的司法のアプローチに関する意見「治療的司法の目的と概要についての

認識」「社会的な支援や再犯防止プログラムの導入による改善の促進」「地域定着支援センターなどの活動による再犯防止の支援、④高齢者の万引き行為の再犯を防ぐための支援策」「認知症やクレプトマニアなどの精神的な問題に対する医療や福祉側の介入の効果」「支援センターとの連携や情報収集による再犯防止の取り組み」「出所後の生活支援や治療プログラムによる再犯防止策」「DVDやパンフレットの制作や損害意識の喚起による再犯防止の取り組み」「万引きが高いコストを伴うことの意識や次なる犯罪防止の観点からの取り組み」「盗難防止策や盗ませない環境づくりの重要性についての認識」。

今回の研究では高齢者の万引きは、病的要因が関与している可能性が示唆されており、F T Dやクレプトマニアなどの状態が関連しているとの報告が存在する。関係者すべてが、精神疾患による高齢者の万引き行為について十分に認識しているとは言い難いが、少なくともその存在には気づいているようである。高齢者の万引き問題への対策は、病的要因の理解と適切な治療・支援、通報手続きの簡素化と啓発、治療的司法の導入、刑罰と防犯対策の強化、社会的な支援、包括的なアプローチなど、多角的な取り組みが必要とされる。これらの施策は、単一のアプローチではなく、複数の要素を組み合わせることで高齢者の万引き行為の予防に効果的な結果をもたらす可能性がある。病的要因に対する適切な対応と社会的支援策の両面を組み合わせることで、精神疾患を抱える高齢者の万引き問題への効果的なアプローチが可能となり、高齢者の健康と福祉を総合的にサポートし、社会全体の安全と調和を促進することが期待される。

おわりに

これまで、高齢者の万引きは主に刑事裁判の分野で取り扱われてきたが、本研究は、高齢者の万引き行為と精神疾患の関連性に焦点を当てて、病的窃盗行為であるクレプトマニアとF T Dという精神疾患との関係を明らかにすることで、社会への認識を高めることを目指している。また、再犯を防ぎ、高齢者の万引き行為に対する効果的な対応策や予防対策についても検討した。

地域包括支援センターのソーシャルワーカーや店舗経営者・店員など一部の関係者を対象としたフォーカスグループインタビューが実施された。しかし、高齢者自身や精神科医師などの専門家の意見や経験が取り入れられていない点が不足している。さ

らに、クレプトマニアとF T Dなどの精神疾患と高齢者の万引き行為の関連性を重点的に検討したが、精神疾患と他の要因（経済的困窮、社会的孤立）との関連性が万引き行為に影響を与える可能性もある。今後の研究では、対象者を増やし、さらに多様な視点を取り入れ、これらの要因を含めた総合的な分析が求められる。

文献

- [1] 星 周一郎, 2018, 「高齢犯罪者対策と法的対応のあり方」『犯罪社会学研究 第 43 号』 pp. 57-70.
- [2] 太田達也, 2014, 「高齢犯罪者の実態と対策」警察学論集 67(6) pp. 3-17.
- [3] 矢島正見, 2018, 「社会経済状況の変化と高齢者万引き・万引き高齢者」『犯罪社会学研究 第 43 号』 p. 15.
- [4] 法務省, 2018, 『平成 30 年版 犯罪白書』. pp. 208-213.
- [5] 法務省矯正局, 2016, 「認知症傾向のある受刑者の概数調査(報告)」. pp. 1-3.
- [6] 原田和明, 2018, 「常習累犯窃盗のある人への福祉的支援についての一考察 一万引きを繰り返す女性への支援を中心に」『豊岡短期大学論集』 No. 15, pp. 213-220.
- [7] 杉澤秀博 長田久雄 渡辺修一郎 中谷陽明, 2021, 『老年学を学ぶ 高齢社会の学際的研究』. pp. 84-89.
- [8] 池田 学, 2008 「前頭側頭型認知症の症候学」『<シンポジウム 9—5>前頭側頭型認知症(FTD)をめぐる基礎と臨床の最前線』 pp. 1002-1004.
- [9] K M R I クレプトマニア医学研究所 <https://kmri.org/about.html> (2023. 06. 15)
- [10] 林大悟, 2019, 「病的窃盗常習事件に関する量刑及び責任能力判断の現状と課題」『専修大学法学研究所所報』特集 学生と市民のための公開講座『現場からの法律学・政治学 III』 pp. 121-144.
- [11] 水谷竹秀 「万引きで 22 年間も“刑務所暮らし”、高齢者「クレプトマニア」の実態」『週刊女性』編集部 週刊女性 2020 年 1 月 28 日号。
<https://www.jprime.jp/articles/-/16963?page=5> (2023. 4. 16)
- [12] 宮本悦子, 2020, 「矯正施設における摂食障害被収容者の万引き行動への対応」『Jpn J Psychosom Med 60:』 pp. 384-390.
- [13] 村松太郎, 三村將, 2016 年 「認知症における犯罪と刑事責任能力」『日本老年医学会雑誌 53 卷 3 号』 pp. 224-225.
- [14] 米田優人, 2020 年 12 月 3 日, 万引きで有罪、男性が再審請求「認知症で責任能力なし」, 朝日新聞デジタル(2023. 5. 16).
<https://www.asahi.com/articles/ASND36295ND3PTIL00Q.html>
- [15] 齊藤知範, 2018, 「超高齢社会における犯罪対策の基軸— 高齢者による万引きを中心に」『JAPANESE JOURNAL OF SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY No. 43.』 p. 8.
- [16] 万引きに関する有識者研究会, 2017, 『高齢者による万引きに関する報告書— 高齢者の万引きの実態と要因を探る— 』. pp. 77-161.
- [17] 2018 年 03 月 30 日, 万引きがやめられない「クレプトマニア (窃盗症)」 対応と治療, NHK ハートネット, (2023. 7. 20) .
<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/24/>
- [18] 守山正, 2015, 「犯罪予防論の現代的意義」『刑法雑誌』 54 卷 3 号 pp. 406-425.
- [19] 東京万引き防止官民合同会議, 2015, 「高齢者の万引きに着目して」『万引きに関する調査研究報告書』. pp. 4-19.
- [20] 坂井昭宏, 2012, 「排除か共生か: 高齢万引き再犯者への対応」『桜美林論考 人文研究』 3: pp. 1 - 17.